

Information7

7月になり暑くなってきましたね💦

今回はシニア猫で多い『**甲状腺機能亢進症**』について詳しくお話します。

こんな症状ありませんか・・・？

- ☑よく食べるのに体重が減った
- ☑よく吐く
- ☑毛並みが悪くなった
- ☑鳴き声が変わった
- ☑水をよく飲むようになり尿の量が増えた
- ☑攻撃的になった

このような症状がみられたら、**甲状腺機能亢進症**というホルモン分泌過剰の病気かもしれません。

7歳以上の猫で多く、甲状腺に腫瘍ができることが原因であり、確実な予防法はありません。

甲状腺は
首のここに
あります



治療

・手術療法

手術により甲状腺を摘出する。
治療効果が確実に得られるが麻酔や入院が必要になり高齢の場合リスクが高い。
手術による合併症を引き起こすことがある。



・食事療法

ヨウ素の制限された食事を与えることで甲状腺ホルモンの合成が抑制。
副作用は少ないが、毎日続ける必要がある。
また他の食事やおやつをあげることができない



・薬物療法（抗甲状腺薬）最も一般的！

麻酔や入院の必要はないが毎日の投薬が必要になる。猫によっては副作用が起る可能性がある。



甲状腺機能亢進症は早期発見と適切な治療を始めれば良好にコントロールできる病気です。

7歳以上のシニア期に入ったら年に**1~2回**の定期的な血液検査をしましょう。その時に甲状腺ホルモンT4もセットでみることも大切です！

症状が気になり始めましたら、**ご自宅でも体重や飲水量、嘔吐、排泄、性格の変化など日々の観察・記録**をしてみましょう。

何かありましたらご相談ください！



検査

身体検査

聴診、触診、全身状態を確認する。



血液検査

甲状腺ホルモンのサイロキシンT4を測定する。

血液生化学検査では肝臓の酵素（AST、ALT、ALP）や、腎機能が悪化していることも多いのでBUN、CREも上昇していることが多い。

画像検査

胸水の貯留や甲状腺の大きさ、形を確認する。

心臓や腎臓に負担がかかりやすいので**胸部X線検査、心臓の超音波検査**をする。

血圧測定

血圧が上昇することが多いので高血圧になっていないか確認する。